特集

パッケージ印刷ビジネス

「DG-5070／Plus」で提案力強化
“世にない印刷物”創出へ

ボトルレース投票券印刷と商業印刷、デジタル印刷を柱に事業を展開する太陽印刷工業㈱（本社／群馬県桐生市三吉町、塩谷幸世社長）は、内製化による付加価値創出と小ロット案件への対応力強化を目的に、トヨテックの自動給紙カッティングプロッター「DG-5070／Plus（振動刃付）」を導入した。群馬県内では加工協力会社が限られる中、同社は長年にわたり加工工程の内製化を推進。全抜きや筋入れを社内で行える体制を構築し、オリジナルパッケージや特殊形状の印刷物などの新たな提案を進めている。塩谷社長は「今まで世になかった印刷物を生み出していかなければ印刷会社は生き残れない」と語り、同機を価値創出のための新たな戦略機と位置付けている。

太陽印刷工業

群馬県桐生市に本社を構える同社の歴史は古い。そのルーツは明治時代に創業した愛隣堂印刷にまで遡る。当時の桐生は織物産業で全国に名を馳せた地域であり、愛隣堂印刷も石版印刷などを手がける有力印刷会社として知られていた。

昭和38年、同社の前身となる組織が愛隣堂印刷の事業を引き継ぐ形でスタート。その後、昭和45年に現在の社名へ変更し、オフセット印刷機を積極的に導入しながら事業を拡大してきた。

現在は、全国のボートレース場や競輪、オートレースで使用される投票券印刷と商業印刷、デジタル印刷を事業の柱としている。とくに、ボートレース投票券は同社の基幹事業の1つであり、全国24場のボートレース場に加えて、場外発売所など全国約200ヵ所へ製品を供給。現在も国内有数のシェアを担っている。

しかし近年は、電話投票などによって投票券需要が減少しており、塩谷社長は「昔は土日になると1万人、2万人がレース場に来ていたが、今は1000人程度。電話やインターネットで投票する人が増え、券の使用量は年々減少している」とする。

そのルーツは明治時代に創業した愛隣堂印刷にまで遡る。当時の桐生は織物産業で全国に名を馳せた地域であり、愛隣堂印刷も石版印刷などを手がける有力印刷会社として知られていた。

昭和38年、同社の前身となる組織が愛隣堂印刷の事業を引き継ぐ形でスタート。その後、昭和45年に現在の社名へ変更し、オフセット印刷機を積極的に導入しながら事業を拡大してきた。

現在は、全国のボートレース場や競輪、オートレースで使用される投票券印刷と商業印刷、デジタル印刷を事業の柱としている。とくに、ボートレース投票券は同社の基幹事業の1つであり、全りわけ桐生地域では製本や抜き加工、PP加工などを依頼できる協力会社が限られている。案件によっては前橋や高崎、さらには県外へ依頼しなければならず、時間やコストの面で課題も少なくなかった。「それなら社内でできることを増やしていこう。そう考えて少しずつ加工設備を増やしてきた」（塩谷社長）

「DG-5070／ Plus」の前で塩谷社長（右）とサンプルをアピールする同社スタッフ

同社では、小ロット案件を中心に内製化を推進し、必要に応じて外部協力会社も活用する柔軟な生産体制を構築している。

こうした課題を解決するため、同社ではオンデマンド印刷とハーフカット機を組み合わせた小ロットシール製作に取り組んだ。シール製作を入口に、PP加工や製本加工、各種後加工へと設備を拡充。群馬県内では外注先が限られるという地域事情もあり、少しずつ内製化の領域を広げてきた。

そうした取り組みの延長線上にあったのが、全抜き加工への対応である。従来保有していたカッティングプロッタはハーフカット加工には対応していたものの、厚紙は時間の問題とも思われていた。

そんな状況が変化したのは、富士フイルムとの新たな付き合いが始まったことだった。Revoria Pressの導入をきっかけに訪れた東京・西麻布のショールームで、「DG-5070／Plus」を目にしたのである。

「最初はトヨテックという会社も知らなかった。ただ、実機を見て説明を聞くうちに、これは良い機械だなという印象を持った」（塩谷社長）

決定打となったのはソフトウェアの完成度である。とくに高く評価したのが、印刷物の四隅を認識する角読みの機能。そして目に見える処理速度の速さである。比較検討していた機種と実際に見比べた結果、動作速度の違いは一目瞭然だったという。

「現場の人間が見ても明らかに速かった。切る能力そのものは大きく変わらなくても、生産性を考えれば差は大きい」（塩谷社長）

そして、もう一つ重視したのが自動給紙機構である。同社では以前から人が張り付かなければ動かせない設備ではなく、一人で複数の工程を担当できる設備を積極的に導入してきた。人手不足や人件費上昇が続く中、限られた人員でより多くの仕事をこなすためである。

「当社では機械台数よりも人の方が少ない。だからこそ、一人でいくつもの仕事ができる環境を作っている」（塩谷社長）

オンデマンド印刷機を稼働させながら加工機も動かす。専門知識のない社員でも簡単な監視や補助作業ができる。そうした生産体制を目指す同社にとって、自動給紙による連続運転は大きな魅力だった。

ソフト性能、加工スピード、そして自動化への可能性。さらに富士フイルムからの後押しもあり、総合的に判断した結果、同社は「DG-5070／Plus」の導入に踏み切った。

想像力をカタチにする新たな戦力機として活用

導入から約1年。「DG-5070／Plus」の稼働率そのものはまだ高くない。しかし、塩谷社長はそれを問題とは考えていないという。

「普通は機械を入れたら稼働率を上げようと考えるかもしれないが、当社は少し違う。機械が動くことよりも、人がしっかり働けることの方が大事だと思っている」（塩谷社長）

同社は現在、営業提案用のサンプル製作に「DG-5070／Plus」を積極的に活用している。幼稚園の卒園記念品向けランドセル型パッケージをはじめ、ゴルフ用品向けのパッケージ、化粧品箱など、従来であれば抜き型製作が必要だった案件も短時間で試作できるようになった。

最大の強みは、現物を持って提案できることである。型代が不要なため、アイデアをすぐ形にできる。営業担当者は完成イメージをそのまま顧客へ提示でき、商談スピードも向上した。

「まず作ってみる。それがお客様への一番の提案になる」（塩谷社長）

同社には「最初はみんな名刺1枚から」という考え方がある。名刺、封筒、案内状。小さな仕事を大切に積み重ねることで顧客との信頼関係を築き、その先の大きな仕事へとつなげていく。

実際に、数年前にパッケージ提案を行った顧客から5年後に新たな案件相談が舞い込んだこともあったという。「0だったものが50万円の仕事になって戻ってきた。そういうことが実際に起きるのである」（塩谷社長）

だからこそ、同社は目先の採算だけで判断しない。提案を続け、顧客との接点を作り続ける。そして、その根底にあるのが、塩谷社長が掲げる「5力＝和」という考え方である。協力、全力、行動力、想像力、努力。この5つの力を結集し、社員一人ひとりが主体的に行動する組織づくりを目指している。

同社にとって「DG-5070／Plus」は単なる加工機ではない。アイデアを形にし、顧客へ新たな提案を届けるための戦力機として、同社の想像力を支えている。

カッティング精度とスピードを高く評価

Invention & Innovation
NITTA
接着剤不要でSDGsに貢献
PolySprint™エンドレス工具
接着剤不要の「エコ工具」。
中綴製本機・紙折機ラインの現場エンドレスに!
経験不要
突然のベルト切断も
素早く復帰
接着剤不要
フィンガーエンドレスで段差無く
ホットプレスで簡単接合
ニッタ株式会社
本社 〒556-0022 大阪市浪速区桜川 4-4-26 TEL.06-6563-1221（代） FAX.06-6563-1222 j wr u<1ly y y QpkwcQeqQr

ロータリーホイール内蔵で、しっかりとした筋押しができます　各種用紙サイズに対応したトヨテック プロッターカッター

菊版対応　自動給紙カッティングプロッター
DG4-0710Plus

『給紙』→『加工』→『排紙』の一連の流れを自動で連続処理、省力化を実現する、菊版対応のカッティングプロッター

・DG4-0710 Plusにはドラックナイフ2本・電動振動刃・ユニバーサルカットツール・筋押しホイールが標準装備です。
・15mmまでの各種ボードや硬い樹脂板のカットも連続処理ができます。
・オプションのルーターで15mm までのアクリル板加工ができます。

※ 画像はオプションのリューター及び排出バケット付き
※ A0サイズ対応機　DG4-0912Plusもございます

B2サイズ対応 自動給紙カッティングプロッター
DG-5070Ⅱ/Plus ※

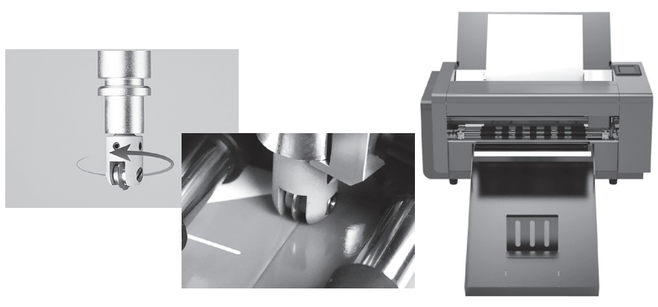
・B2相当サイズ（530×750mm）のシール、ラベル、コートボール等の紙器を自動給紙、カット、排出。
・ロータリーホイール内蔵でしっかりと筋押し。
・処理対応紙厚は2.0mmまで。
・電動振動刃モデルは6mm 厚み材料まで可能。
・バキュームパッド自動給紙で、薄手から厚手まで確実に給紙。

※本機は『中小企業省力化投資補助金 カタログ注文型』対象商品

自動給紙卓上型プロッターカッター
DG350S12Pro-TT

【ロータリーホイール内蔵で厚手の用紙もしっかりと筋入れ可能】
・2カットツール搭載ヘッドで半抜き+筋入れが同時に可能。
・CCDカメラでの自動トンボ認識位置合わせで誤差のないカット。
・処理可能紙厚は0.43mm（80-350gsm）以下まで。
・卓上型でA3ノビサイズまで給紙・カッティング・排紙が可能。

卓上型プロッターカッターではペンタイプの筋押しが主流でしたが、本機はロータリーホイール内蔵モデル。



株式会社トヨテック
TOYOTEC co., LTD
〒278-0015 千葉県野田市西三ヶ尾77-2　TEL:04-7121-0755　FAX:04-7121-0740
URL:http://www.toyotec-intl.co.jp　✉ sales@toyotec-intl.co.jp

デモ・サンプル作成いたします。お気軽にお問い合わせください。